



『海禅寺新聞』第33号

今ほど「分断」と「争い」について考えさせられる日々はないでしょう。ウクライナでの戦禍について報じるニュースは、悲慘さと憤りに溢れています。戦争に至ってしまった事態の発生要因について、調べれば調べるほど、単にロシアのプーチン大統領による単独の暴挙などという単純なことではないようです。この件にまつわる様々な利権構造も見え隠れしています。ともかくにも、一般の方々が巻き込まれている凄惨な現実が今この瞬間にも繰り広げられています。いたたまれない心持ちの皆さんも多いことでしょう。一刻も早く、争いが終息することを祈るばかりです。

マスコミの報道を見てみると、評論家の中には、隣国の脅威という視点では日本にとつてもこれは人ごとではないと指摘される方々もおられます。確かにそういうことも考えておく必要があるかもしれませんが、しかし私が気になるのは、私たち一人一人の心の中にある「分断」意識についてです。

日本在住のロシア人に対する差別がすでに始まっているそうです。日本は島国故に、海外の方達とくらべて「内」と「外」との差別意識が強いと言われています。自分とは違う何かに対する拒否反応は、より強く、そして速く出やすいのでしょう。しかしこれは「人の道」として、正しい反応

でしょうか。

私たちの身近では、約3年前から始まった新型コロナウイルス感染症流行を受けて、感染症対策として様々な対策行動や概念が日常化しています。実際に罹患してしまい苦しい思いをされた方、または家族にご高齢であったり基礎疾患のある方がおられる場合は、より徹底した感染予防対策をとられていることでしょうか。大事なことです。しかし、悲しいかな、これも見方によつてはある種の「分断」行動になっています。人と人の距離をとること。さらにはその間にアクリル板を挟み置くこと。買い物に行けば、ビニールカーテンがあたりちに垂れ下がり、人を介さない無人のレジも増えました。職場や学校でも「黙食」が当たり前になり、そしてマスクの一般化により、表情を介したコミュニケーションができない日々が続いています。体調が悪くなれば「陽性」か「陰性」かを細かに検査され、「濃厚接触者」という言葉とともに人と向き合いじつくり語り合うこと、関わること自体が「悪」であるかのような意識が植え付けられています。感染対策の「正しさ」にはたくさんの考え方、主義主張があり、そうした思いのぶつかり合いは日本のみならず、世界中で発生しています。ワクチンの推進派と反対派、マスクを着用するかしないか。行動や行楽の自粛をしているか、していないか。安心安全に幸せに生活したいという思いは皆共通のはずなのに、あちこちで対立が生じています。市中感染のリスクを下げるという大義の下に、私たちが失ってしまったもの。そしてそれと引き換えに無意識の中に宿っているかもしれない人と人との分断意識の芽。これはある種の差別意識を拡大してしまう危険性を孕んでいるように思います。

お隣の芙蓉園でも、友達がきちんと手を洗わないこと、手指消毒をしないこと、マスクをしないことを厳しく叱責する子ども姿に出会うことがあります。その度に、指摘する際の物の表現の仕方や、マスクの限定的な効果について伝えていますが、コロナ禍を通じて、子ども達の中にも、穏やかでない感情が育ってしまったていることを感じます。

海禅寺住職、副住職の芙蓉園での仕事では、オンライン会議や面談が増えました。また巷ではオンライン法事や葬儀が模索され、全国でそうした実施事例が多数報告されるようになりました。人と人が対面することを控える風潮の中で、新しい可能性を開いていくことは大切ですが、一方でこうしたハイテク機器やシステムは、使っていること自体に自己陶醉してしまいがちな点に注意したいものです。身体性を伴わず、相手の息づかいが感じられない画面越しのやりとりは、大事な何かを欠けているという印象が拭えません。

日本文化は自他を一体として捉える結びつきの中で、その豊かさを深めてきたという評価があります。「私」と「あなた」、「人間」と「大自然」、「神」と「仏」も本来一体でした。近代化の過程で、合理的に物事を進めていくため、あらゆることを区分けし、整理し、合理化する中、一見すると非効率な「一体の思想」は邪魔になったのかもしれない。

しかし近代の進歩主義を突き詰めた現代社会は、新出の感染症に翻弄され、新しい戦争まで引き起こし、さらに人の心まで荒廃させてしまっているようにも見えます。このままでよいのでしょうか。園のグラウンド脇を通りかかったご近所の方が、ふと足を止めて子ども達が楽し

そうに遊ぶ姿を眺めていました。何かに信頼しきつて、ニコニコ幸せそうに遊ぶ幼児期の子どもの姿を見るにつけ、私たち大人の窮屈さの根はどこにあるのかと考えます。仏教では、その根は、「自分自身の心の中にあるのだよ」と教えています。私たち人類は、大地を傷つけ、奪い取り、汚し、焼き尽くし、そして互いに殺し合うばかりの醜い生き物なのではないでしょうか。いえ、違うはずですよ。 合掌

ホクノオセツキヤ、
桃太郎といふモノに
なれなりました。



→2013年度「新聞広告クリエイティブコンテスト」受賞作品

一方的なめでたし、めでたしを、生まないために。広げよう、あなたがみている世界。

『生きる力 vol.108』送付

今回の特集は「生きる力とお大師様」です。ぜひ一読ください。本誌裏面には新装オープンした総本山智積院会館のご案内にも掲載されています。宿坊とは思えない程に整備された宿泊施設と合わせて総本山ならではの体験ができます。感染症が落ち着き、京都へお出かけの際はぜひご利用ください。またお檀家さん信者さん方で訪れる檀参の企画も検討していきます。 ※会館について本山ホームページをご覧ください

春彼岸会 中日法要のご案内

恒例の春彼岸会法要を海禅寺本堂でお勤めいたします。皆さんで先祖の供養をいたしましょう。どうぞご家族そろってお出かけください。(申込不要)

日程：令和4年3月21日(月・祝)

時間：受付 午前10時

法要 午前10時30分～

※法要終了後の茶話会ですが、今回も感染症に配慮して中止します。

※彼岸会中日法要の供養塔婆をご希望の方は、

3月18日(金)夕刻までにお申し込みください。(供養塔婆料 一基 3000円)

※同日午前9時～午後1時まで永代供養堂の扉をお開けしています。お堂の中には入れませんが、外からご自由に参拝いただけます。

電話 … 02688-2212972

ファックス… 02688-261147

おねがい

第11回 聖天祭 開催決定

壇信徒の皆様にご理解ご協力をいただき開催を続けてきた聖天祭は、おかげさまで11回目となります。昨年同様の規模で、感染症に配慮しながら開催する予定です。

実行委員会では、お祭りをお手伝いいただける方々を大募集中です。内容は、会場準備・片付け・駐車場係・会場案内・見回りなどですが、ご無理のない可能な時間帯に限ってでも構いません。お祭りを作り上げる喜びを共有していただき、お檀家の皆さん、そして有志のスタッフの皆さん同士が、あたたかな仲間として広がっていくことを願っております。ぜひお気軽にお問い合わせください。

【聖天祭 日時】

日程：令和4年5月15日(日)

時間：午前10時～午後3時

※感染症の状況によっては予定を変更することがあります



聖天祭とは

大勢の方々のご寄進により、

美しく整った聖天堂。

聖天祭は、ご寄附をいただいた皆さん

お一人お一人の思いを、

より意義あるものとして

広げていきたいと始まったお祭りです。

海禅寺に多くの皆さんが集まり・出会い・

祈り、そしてこれからは繋がる縁をもつ

ていただけることを願っています。

世界平和のために、

いま私たちができること

※インド在住のチベット仏教の高僧、

ゴペル・リンポチエのお言葉を掲載いたします

ロシアとウクライナの問題、チベットと中国政府との問題、そういうことを私たちのような個人が大きく変えることはできません。あの人が悪い、この人が悪い、こゝうしたらいいなどと言って今の状況が変わるのならば、そうすればいいでしょう。しかし私たちがそんなことを言ったり思ったりしても全く現状改善に役にたちません。ロシアの人もウクライナの人も、中国人も、チベット人もすべての人類が、そしてすべての生きとし生けるものが、心安らかに暮らせるように、まずは私たち自身が真剣にそれを願わなくてはなりません。それができなければ、世界が平和になることなんてありません。

世界平和を本気で願って、自分たちと同じ人類が幸せでありますようにとお祈りすることは、別に仏壇の前で座禅を組んでやる必要なんて全くありません。歩きながら、ご飯を食べながら、仕事をしながらできるんです。世界にはこういう問題があるけど、みんなでそういうことを願って、行動し、発言し、自分たちの周りの人たちにもまずは自分たちの思いを伝えていくこと。これ以外に世界平和を実現する方法なんてないんです。

間違ったことをしている人がいる場合には、自分が間違っていることをしてしまつた時と同じようにそれを悔い改めるための機会が必要です。彼らを憎んだり、嫌悪感を抱いても、その問題の解決には全く

役立ちません。まずは自分たちが心穏やかに、元気にのんびりすごしながら、さまざまな問題も解決していくことを願うこと、仏教を学ぶ人はこのように心がけるべきなのです。憂鬱な気持ちになっても何の役にも立たないので、やめた方がいいんです。今回のことで私もロシア人の学生たちのためにロシアに行く予定が当分延期になりました。日本に前のように行ってみなさんと一緒に仏教の勉強をするのも、もう少しかかるでしょう。でも私はいつもロシア人のご縁のあった人たち、日本でご縁のあった人たちのことを想っています。ですので、みなさんも、私たちがいまままで学んできたことを、静かに実践してもらえたら嬉しく思います。みなさんおひとりおひとりのそうした思いが、世界平和や感染症の問題の終結に確実に役立つのです。

『文殊師利大乘仏教会』のサイト

(NMBA.JP:DREPUNG GOMANG JAPAN)より転載

※同会は、チベット仏教ゲルク派総本山デペン・ゴマン学堂の正式な日本支部として、ダライ・ラマ法王の指導を受け大乘仏教の精神をもとに活動しています。

編集後記

今回は冒頭から、「分断」について考えていることを掲載いたしました。考えてみるとコロナ禍以前から、私たちの社会ではあちこちに、他者への理解不足から生じる様々な思い違いがあることに気付かされました。

ひよつとしたら海禅寺と檀信徒の皆さんとの間にもそれはあるのかもしれない。そうした「違い」を乗り越えるには率直な「対話」が最良の方法の一つです。どうぞ何かお気づきのこと、気がかりなことがありましたら、遠慮なくご意見をいただきましたら幸いです。